

農林水産省は安全性の向上を目的として、食品のリスク管理を行っています。FAMICでは、信頼性の高い分析試験体制を構築し、農林水産省からの要請に基づき、分析などを実施しています。

## リスク管理すべき有害化学物質

麦類の赤かび病で産生するかび毒

代表的なかび毒のアフラトキシン

加熱加工で生じるアクリルアミド

キク科、ムラサキ科植物などに含まれるアルカロイド類

## 分析試験操作の概要<かび毒>

試料の粉碎  
均一化

抽出

測定(LC-MS/MS)

試料の採取

精製(妨害除去)

試料の粉碎均一化と採取は、汚染状況を正しく評価するために、非常に重要な操作です。これらの物質の分析試験は、試料から抽出、精製、測定という手順で行うのが基本です。

## 信頼性確保の取組

食品の安全性に関わる情報は、信頼性が高いものでなければなりません。

FAMICでは、分析試験の信頼性を確保し、適切な情報を提供するための取組とし、かび毒10種(3-アセチル-デオキシニバレノール(3-Ac-DON)、15-アセチル-デオキシニバレノール(15-Ac-DON)、4-アセチル-ニバレノール(4-Ac-NIV)、デオキシニバレノール-3-グルコシド(D3G)、ジアセトキシスシルペノール(DAS)、DON、NIV、T-2、HT-2、ZEN)について、小麦と大麦を対象品目として一斉分析できることを確認し、試験所の能力と品質保証の国際規格であるISO/IEC17025の適合性認定を取得しました。

ISO/IEC17025 認定番号 RTL03860  
LC-MS/MSによる小麦及び大麦中の赤かび病かび毒の定量試験

